

今週のメニュー

■トピックス

◇帝人フロンティアがターポリンフォトコンテストを開催

■随想

◇SDGs を自分ごとにするためには？

第3回 企業は、SDGsにどのように取り組めばよいのか？

上智大学地球環境学研究科教授 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇帝人フロンティアがターポリンフォトコンテストを開催

[帝人フロンティア](#)(株)が開催したターポリンフォトコンテストの結果を紹介します。募集は2021年12月1日から2022年2月28日まで3ヶ月間行われました。募集の対象は、同社のターポリン（ワンナップ®、カルテック®、ストーム®）*1)を用いた施工事例です。受賞作は4月初旬に公表され、受賞者には賞状と賞品が贈られました。

*1) ワンナップ®には1類と2類があり、1類が0.5mm厚、2類が0.35mm。

カルテック®2はRoHS2指令に適合した軽量ターポリン。

ストーム®は0.8mm厚手タイプ。

「ターポリン」とは、ポリエステル製の布を軟質ポリ塩化ビニルで挟んだ生地を指しています。雨風に強く、防水性がある、耐久性に優れているのがターポリンの特徴で、横断幕、看板、屋型テント（簡易テント）や工事現場のシートに使われています。さらに耐水性や耐久性があるためバッグやリュックにもターポリン生地が使用されるケースがあります。

同社はターポリン生地を取り扱っており、専用のホームページ（HP）やカタログで商品を紹介していますが、何に使われているのか、どのように使われているのかなど伝わりにくいことから、様々な施工事例をすぐに見てもらえるようにHPを充実し、ターポリンをもっと身近に感じてもらうため、本コンテストを企画し募集したとのこと。今回が最初の開催で、社内で審査が行われました。結果は、ワンナップ®1類賞が1点、同2類が3点、カルテック®2部門が2点、特別賞が3点、合計9点が選ばれました。

受賞作の主な特徴については次の通りです。昨今の感染防止用等の間仕切り（膜構造）の機能として（①、⑥）、キャンプやイベントなどにおける日除けや耐久性のあるカバー

として(②、④、⑦、⑧)、ターポリンの印刷性やデザイン性が優れている例として(③、⑤、⑨)各々選ばれました。



①【ワンナップ 1 類賞】
有限会社大西テント商会
工場プラントの防塵間仕切り



②【ワンナップ 2 類賞】
MONO TENT
キャンプ用折り畳み椅子カバー



③【ワンナップ 2 類賞】
小川百統子様
「あ」のワンピース



④【ワンナップ 2 類賞】
株式会社ヨシテンキャンパス
キッチンカーオーニング



⑤【カルテック 2 部門】
西岡テント
名刺



⑥【カルテック 2 部門】
株式会社セイコー
簡易テント天幕・横幕



⑦【特別賞】
株式会社丸八テント商会
オリンピックパラソル



⑧【特別賞】
株式会社山添シート内装
タイヤカバー



⑨【特別賞】
岡田防水布店
スクリーン

同社は本コンテストについてHP・インスタグラムも利用し情報発信しています。これによって情報が拡散されターポリンの認知度がより広まっていくことが期待されます。

◇SDGs を自分ごとにするためには？

第3回 企業は、SDGs にどのように取り組めばよいのか？

上智大学地球環境学研究科教授 織 朱實

1. SDGs と企業活動

第2回では、SDGs の本質とは何かについて見てきました。第三回目からは、具体的に企業がSDGsを企業経営に取り入れるにはどうしていけばよいのか、そもそもSDGsを取り入れる意義はどこにあるのか？を見ていきたいと思います。

SDGsを理解するうえでの重要なキーワードは、いくつかありますが特に重要なのは以下の5つでしょう。まず「誰一人取り残さない」、そして「世界はつながっている」「環境、経済、社会を統合的にとらえる」、このうえで「バックキャスト的なアプローチで」「結果を見える化」していくということです。

今まで私も環境問題について、企業に何十年も働きかけてきましたが、そのたびに「企業経営がまずあってから」「今は、余裕がない」という対応で、自分の言葉がなかなか届かず、いら立ってしまうことがしばしばでした。しかし、SDGsを用いるようになってから、企業に、すんなり思いが伝わるようになっていったのです。SDGsの「共通言語」としてのパワーに驚かされるのが何度もありました。企業に伝えようとしていることの内容は昔と変わっていないのですが、SDGsを使うことによって、共感が得られやすくなったのです。SDGsのキーワード、「誰一人取り残さない」「世界はつながっている」「環境、経済、社会を統合的にとらえる」が誰も実感できる世界になってきたこと（コロナ以降は特にそうでしょう）、SDGs目標が身近であること、アイコンが分かりやすいことなどが理由と考えられます。

現在、企業が抱えている課題は、SDGsの目標と密接なかかわりを持ってきています。多様な人材が、ジェンダーの問題を超えて働きやすい職場だと感じて、肉体的にも精神的にも健康な状態で、パートナーシップを築いていけるようであれば、生産性があがる企業へとなくなっていくことは明らかです。このように、SDGsは、世界の目標であると同時に、それぞれの企業の直面している課題に対する目標でもあるのです。

2. なぜSDGsを企業活動に取り入れることが難しいのか？

このように企業活動と密接な関係性を有するSDGsですが、多くの企業は「総論賛成。各論・・・難しい」ということで、SDGsバッチを社員に配布したり、社内報告書などにSDGsアイコンを貼付するといううわべだけの対応にとどまってしまうのはなぜでしょうか？

「17の目標の関係が分からない」、「目標が多すぎて、どこから手を付けていいかわからない」「途上国の問題で自分たちに関係があるとは思えない」、「自分一人がやっても変わるとは思えない」、「法的拘束力がない単なる目標、結果がわかりにくい」、色々な理由がアンケートを取るとあがってきます。

どれも、納得のできるものです。ここで止まって、「社会的にSDGs流行っているので、アイコンを活用していこう」「統合報告書の中で、紐づけしていけばいいや」という企業と、SDGsを企業経営の中に積極的に取り入っている企業では企業の格付けやESG投資

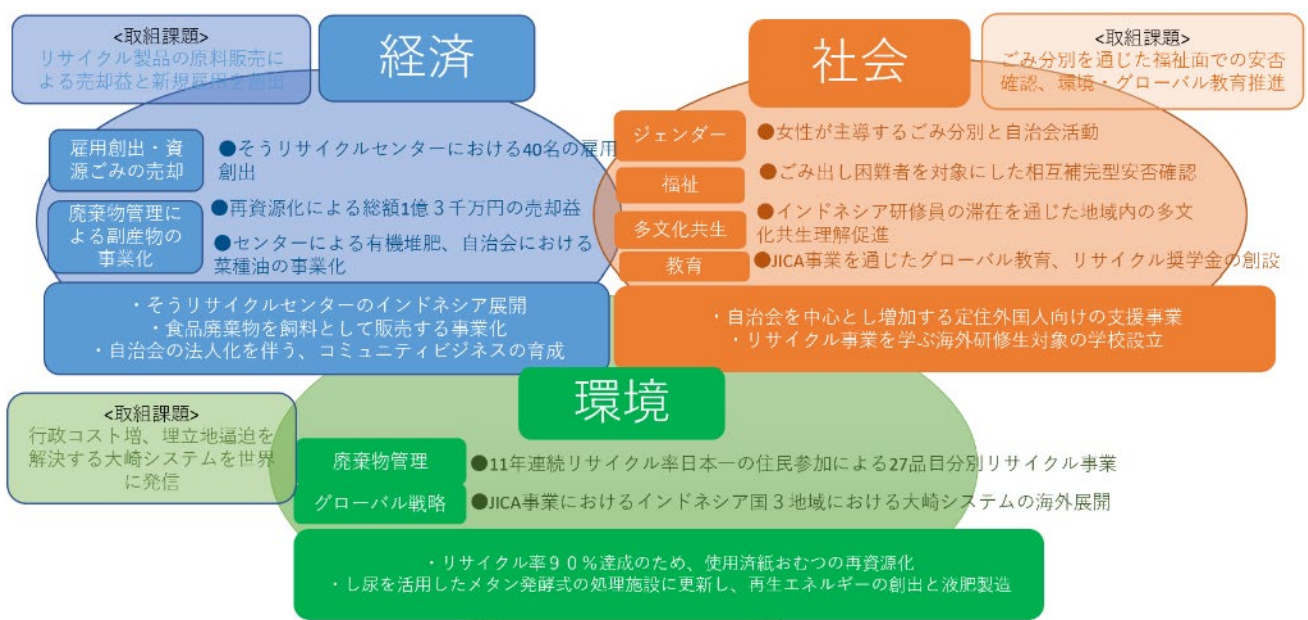
などの面からも差が出始めてきています。この企業間の差は、どこから発生するのでしょうか？

三科公孝『儲かるSDGs——危機を乗り越えるための経営戦略』（クロスメディア・パブリッシング.2020）では、中小企業がSDGsを活用しながら集客や売り上げを伸ばしている例が紹介されています。これら紹介されている企業や私がヒアリングをしてきた企業、自治体の多くの成功のポイントは、SDGsを「自分ごと化」している点です。例えば、人口約1万2000人の小さな町である、鹿児島県大崎町は、リサイクルに積極的に取り組んでいる町で、SDGs未来都市に選定され、第二回「SDGsアワード」を受賞しました。その結果、国内外から多くの視察が訪れる町になり、活性化につながっています。しかし、同じようにリサイクルに積極的に取り組んでいる自治体は、多くあります。大崎町の取組だけが特化しているものではありません。それなのに、なぜ大崎町には、多くの視察者が訪れるようになっていったのでしょうか？スタートはとても簡単なことでした。町で、まず下のPPのように自分たちのリサイクルの取組を「環境」「経済」「社会」に落とし込んでいったのです。簡単なことなのですが、こうしたSDGsを「自分ごと化」していく発想があるかないかで、大きく取組が異なってくるのです。



視察の様子（大崎町）

リサイクルをSDGsの視点から再定義



3. SDGs を取り入れる際に陥りやすい罠

SDGs を自社の経営に取り入れるときに気を付けなければならない点は、決してうわべだけの取組に終わらせないこと、SDGs ウォッシング（SDGs を宣伝に利用している）と思われたいこと。そのためには、自分たちの業務にどれくらい落とし込んでいくか、と同時に、SDGs の「誰一人取り残さない」「つながる世界」「環境、経済、社会を統合的にとらえる」という本質を社員ひとりひとりがきちんと腹落ちしていることが重要です。

「世界はつながっている」ということは、同時に SDGs の目標が相互につながっていることを意味しています。一つの課題を解決し、目標を達成すると、それは別の目標にもつながり新たな課題に直面することになります。このトレードオフの問題についても十分に考えていかなければならないということです。例えば、「ジェンダーの問題」を解決するために、育児休暇を取りやすい制度を促進していく、そうするとその抜けた穴を埋めるために他の社員の労働時間が超過していってしまう。これでは、不満がたまるばかりです。「ジェンダー問題」に配慮した誰もが「働きやすい職場」を実現するためには、新たに発生する課題についても目標と関連づけながら対応を考える必要があるのです。「SDGs の 17 の目標を全て達成する必要はない」、とよく言われます。確かに、スタートは自社とかかわりのある目標や得意な分野からスタートすることになりますが、SDGs の 17 の目標はすべて関連しているため、一つの目標を達成していけば、他の目標との関係性についても考慮していかなければならなくなるのです。こうした SDGs 目標の相互の関係、トレードオフについてもじっくり考えていく必要があります。こうした点を踏まえながら、実際に企業ではどのように取り組んでいるのか、次回から何回かに分けて企業の取組例を見ていきたいと思えます。

■ 編集後記

VEC のホームページに「塩ビと SDGs」のパンフレットを掲載しました（4 月 27 日）。小学校や中学校の子どもたち向けの環境学習用資料として作成しました。汎用プラスチックの一つであるポリ塩化ビニル（塩ビ、PVC）が私たちの生活を支えている身近な存在であって、地球温暖化対策や資源循環など社会課題に貢献していることを紹介しています。是非ご活用ください。

<https://www.vec.gr.jp/lib/lib3.html>

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp

リサイクルをSDGsの視点から再定義

